



僕 発達障害？

宮城小児科医院
宮城 英雅

(居た居た)

20年ほど前からでしたか、発達障害と呼ばれる性格の人が存在することが解ってきた。その概念や症状を学んでいくうちに、???と脳裏をかすめていく場面が浮かんで気になりだした。過去に全くその通りと言う感じの人が幾人か居たようだ。そうかそうかと面白がっていたら、オヤー自分も似たようなことをしていたのではないか。

(思い出す)

2人の姉や2人の兄達に「お前は子供の頃、服が少し濡れても着替え、一寸汚れたと云ってはすぐ着替えていた。」1日に3~4回といわず、10回位も。4・5歳頃のことです。綺麗好きというかお洒落と言うか目に余る存在であったらしい。その言い方は、からかいと侮蔑の気持ちが込められていたので良い思い出ではない。之は発達障害児特性の触覚過敏では無かったろうか。

(更に思い出す)

兄たちが、学校へ出払ってしまうと、蓄音機の前にでんと座り、蓋を開ける。プーンと独特的の機械油のにおいが嗅覚を刺激する。これからすることに気分が昂ってくる。(これまた特性の嗅覚過敏なのか単なる記憶なのか)

(記憶)

蓄音機の傍に積み重ねられた30枚ほどのレコードの一番上一枚を取り上げる、当時のレコードはペラペラの茶色い紙袋に入っていた。それにはマイクに向かっている犬(ビクター)、四角くデザインされた獅子(キング)のトレードマークがあった。然しティチクとかコロンビア等は記憶にない。

(陶酔)

蓄音機の奥のフックに掛けられたハンドルを外し、右側の壁にある穴に差し込みぐるぐる回すゼンマイ仕掛けであった。ハンドルの回転が初め柔らかく次第に固くなってくる。腕に快感が伝わってくる。レコードを載せて、アームを動かすと回転し始める。蓄音器のヘッドをそっとレコードに置く。長じて解ったことだがそれは78回転のSPと言われたもので回転速度が速かった。さてレコードが回り出すと、その溝が1本ずつ剥がされて中央部分に吸い込まれて行く。(様に見えるのではなくそう思い込んでいた)。溝は透明感があり、柔らかな感じを醸していく、心がとてもうっとりして安らぐのでした。(聴覚過敏・回転物が好き うっとり)

(音楽のジャンル)

レコードは童謡を初め流行歌・国民学校唱歌・軍歌・軍国歌謡等種々積まれていて、それを上から順に片端からかけるのでありました。その所為か兄たちの知らない歌を僕は歌えるのでした。ええ、社会人になっても覚えているのです。(こだわり 聽覚過敏)

(唯我独尊)

メロデーはかなり正確に歌詞はかなり曖昧に覚えている。流行歌にそのようなことはないが、童謡には戦後一度も聴いたことが無い曲も数曲あって、今でも口ずさむことができる。という事は自分の知る限りそれらの曲は現在の世の中で僕だけが知っていることになる。

(音感)

長じてからエレクトーンを習っていた頃、楽器を弾くのは下手であったが、先生の弾く簡単な即興曲を追いかけて歌えたものだから、先生は面白がってリズムを変えて弾くとほぼその通り歌う。次第にむきになって曲は長めになり、メロデーは変わり、テンポも変わるが、その通りさらっと歌うと「バランスの悪い変な人だ。」と笑って言われたことを覚えている。そう言えば日常生活でのいろいろな音も音階で口ずさんだりしていた。「ミードーミードー」は救急車の、「ドレミーレド・ドレミレドレー」は夜泣き蓄

妻の鳴き声である。工事現場の雑音も音階に置き換えたりして楽しんでいた。絶対音階に強いことなのか。(運動神経の鈍と聴覚過敏)

(注意力)

天妃幼稚園に通い始めて人見知り、場所見知りの所為か長くは続かなかった。それにしては先生の顔やオルガンの蓋を開いた時の臭いの感じが残っている。(人見知りが強い)
「お前は何回同じことを言われたら判るのだ。」としばしば言われたことも耳に残っている。(注意欠陥)

疎開先の八代に汽車が停車した際「ロシアだ！」と叫び兄に頭をしごかれた記憶がある。未だ国民学校に入学していなかったが、字も読めたようだが、本を読んだ記憶は全くない。然し本棚を燃やしかけた記憶はある。灯火管制中に蠅燭をつけて本を探していて火が付いたのであろう。家人が気づいてボヤで済んだ。(注意欠陥)

(KY)

小学校5年生の頃、作文の時間に、見たまま聞いたままを其の儘綴りなさいと言われた。僕のノートにはトラック・人・木・家・ワンワン・ブーン・プープー等単語だけが紙面一杯に書かれていた。単語だけの大集合であった。先生にこっぴどく叱られたことは言うまでもない（言われたことの其の儘しか理解できない。裏に含まれている意味を汲み取れなくて、空気が読めなかつた。）

(性癖)

成人してからは雑誌や季刊誌のシリーズ物の記事は切り離してナンバーを揃え、ファイルする。レジ袋は綺麗に中の空気を抜き、取っ手の部分は捩じれて紐のようになっているので、皺をきちんと伸ばして平たくする。角や縁を出来る限り揃えて丁寧に畳む。それらはサイズ別にまとめてられ、状差し用の釣り袋に収められる。

そして生ごみ入れになったり、野菜入れや食料品入れに再利用される。生ごみは屋敷の周囲の生け垣の根元に毎朝うめる。次々に隣りへと埋めてゆき、一回りするのに2カ月かかる。それは楽しい作業だ。植えた覚えはないのに、西瓜や瓜の芽が出てきたり、アボカドの木が7～

8 本成長している。巨大な袋には庭のごみや落ち葉を入れて捨てる。(勿体無い ケチ こだわり)
(更なる性癖)

もうひとつ五百円玉のコレクションがある。初めは成り行きで返ってきたコインを貯金箱に放り込んでいたのだが、1年たつと数万円になっていた。之に気を良くして貯金箱の缶も大きくし、5百円玉が戻ってくるように千円札と百円玉や、1円玉まで作る為、瞬時に計算し、小銭入れをかき回している自分が居た。或る時タクシーで千百いくらかを上げて、5百円玉のご帰還を期待していたら、百円玉やら十円玉をざらざらと返されたことがあった。とても腹が立ったことを覚えている。「他人の意図を汲み取ることのできないべらぼうめが…。」と数日の間思い出しては腹を立てていたが、ひょっとしたら、5百円玉が無かったのかなと気が付き、奴を許してやろうとやっとこさ心が落ち着いてきたことがある。(他人の立場を理解できない)
(几帳面?)

調理器具や食器・文房具なども所定の場所にない時はパニックとまではいかないが、とてもイライラする。そう。僕は料理がすきだ。男性的な粗っぽい料理。(こだわり) そのくせ机上は目も当たらないほど散らかっていて几帳面ではないのだ。未整理の資料は乱雑に山積され、表面だけ印刷されて裏が白紙の紙はいちいち集められて、ファックスに使用されるのをホルダーの中で待っている。それらをかいぐって、卓上テレビ、ポータブルステレオおよびそのコードなどが机を這い回っている。(整理が不得手)(数字)

診察室ではデジタル壁時計を何気なく見たとき、4時44分とか1時23分、12時12分などであった場合、数字の並び方に感動する。とりわけ11時11分であったらとてもラッキーな心持になる。(視覚過敏)

(結論)

こんな自分を見ていると高機能発達障害・アスペルガー症候群かなと思ったりするが、自惚れもいい加減にしろですか。

実際如何なものでしょうか。